

Vol.60

Vol.60 (2014年 秋号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM 事例・知識	3
Activities / 支部活動	11
Stakeholders / 法人スポンサー紹介	18
PM Calendar / PM カレンダー	20
Fact Database / データベース	21
Editor's Note / 編集後記	25

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

- ◆PMI日本フォーラム2014 3
PMI日本支部 事務局
- ◆私のブレークスルー体験 8
 - 当たって砕けろ UTM・マレーシア日本国際工科院 大島 直樹

Activities / 支部活動 11

- 部会紹介 ソーシャルPM研究会 (その2)
WG1: ソーシャル・プロジェクト事例調査 / WG2: ソーシャルPM手法開発
PMI日本支部
ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 代表
高橋 正憲
同 手法開発WG サブリーダー
中谷 英雄

- ◆PMI Japan Festa 2014 開催のお知らせ 16
 - 『To the Next.』 ～未来を創る新時代のPMを考える～

Stakeholders/ 法人スポンサー紹介 18

- 株式会社ワコム

PM Calendar / PMカレンダー 20

- PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 21

Editor's Note / 編集後記 25

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

PMI日本フォーラム2014

PMI日本支部 事務局

PMI日本支部では、経済産業省、国土交通省、総務省、文部科学省、独立行政法人情報処理推進機構、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会、一般財団法人先端建設技術研究所から後援をいただき、「人材育成 ～グローバルで確固たる成功をおさめるために～」をテーマに、『PMI日本フォーラム2014』を、7月12日(土)、13日(日)の両日、東京都千代田区学術総合センターにおいて開催しました。

上記テーマは、グローバルな世界に挑戦し活躍できる人材の育成、特に、高齢化が進む日本社会において若手プロジェクト・マネジャーの育成が急務であるという時代の要請に応じて定めました。このテーマにそって、大会場での基調・招待講演については全て日英同時通訳付きとするとともに、国内外の幅広い分野の識者から講演をいただきました。また、英語のみで行うセッションのほか、プロジェクトマネジメント教育に力を入れている大学からの講演、PMI日本支部各分会からの講演など、多岐にわたる分野のトラックを提供しました。

また、今年初めての試みとして、以下の2点を実施しました。

- より多くの方々に発表いただけるよう、基調・招待以外のトラックを原則25分に
- 大阪梅田にリモート会場を設け、12の基調・招待講演をリアルタイムで聴講いただけるコースを提供

基調・招待講演では、PMI本部理事Deanna Landers氏による「価値を届ける：次世代プロジェクト・マネジャー」をはじめ、12人の講師の皆さまから、グローバルな視点からみた「プロジェクトマネジメント」、「人材育成」などに関連し、示唆に富む講演をいただきました。

また、新規設置から3年目を迎えたアカデミック・トラックでは、大学や高等専門学校におけるPM研修や実践教育の実態の紹介に加えて、今年は期待される人材像が大きなテーマとなりました。そのため、大学のみならず産業界、IPA殿にも参加いただくパネル討議を設けました。さらに、カーネギーメロン大学SEI (Software Engineering Institute) による講演を加えるなど多彩なプログラムを組むことができました。

当プログラムに対する関心は年々増加し、今年は昨年に倍するほどの参加者を得て、内容的にも高い評価をいただくことができました。

各テーマ別トラックでは、PMIがグローバルで推進しているPMBOK®ガイド、ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメント、組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル、プロジェクトマネジャー・コンピテンシー開発体系などに関連したセッションが実施され、各会場とも多くの参加者で盛り上がりました。

今年も猛暑の盛りに開催しましたが、受け付け開始直後から多くの皆さまからお申し込みを頂戴し、延べ1,200名を超える方々に参加いただき盛況のうちに閉幕しました。

これは、協賛いただいた企業さまのほか企業展示ブースの出展、来場者用ストラップの提供、企業講演など20社に上るスポンサー企業さまによるご支援のたまものと考えています。ここに厚く御礼申し上げます。

来年も今年と同じく夏開催とし、7月11日(土)、12日(日)の二日間を予定しておりますが、皆さまからいただいたご意見を参考に、より充実したフォーラムが開催できるよう改善を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

■PMI日本フォーラム2014

●会場エントランス、受付の様子



会場エントランスに向かう方々



受付風景



受付風景



講演者・法人スポンサー用受付ブース

●基調・招待講演



基調・招待講演の会場



手嶋龍一様による講演



ソフトウェア工学研究所所長Dr. Paul D. Nielsen による基調講演



PMI理事Ms.DeannaLanders による基調講演

■PMI日本フォーラム2014

●一般セッション



部会による講演



外国人による講演



法人スポンサー・スタディー・グループによる講演



フォーラム・スポンサーによる講演

●アカデミック・トラック



SEIソフトウェア工学実践グループディレクターJames W. Over氏による講演



広島修道大学 脇谷教授による講演



教育トラックでのパネル・ディスカッション



教育トラックでのパネル・ディスカッション

Best Practice and Competence / PM事例・知識

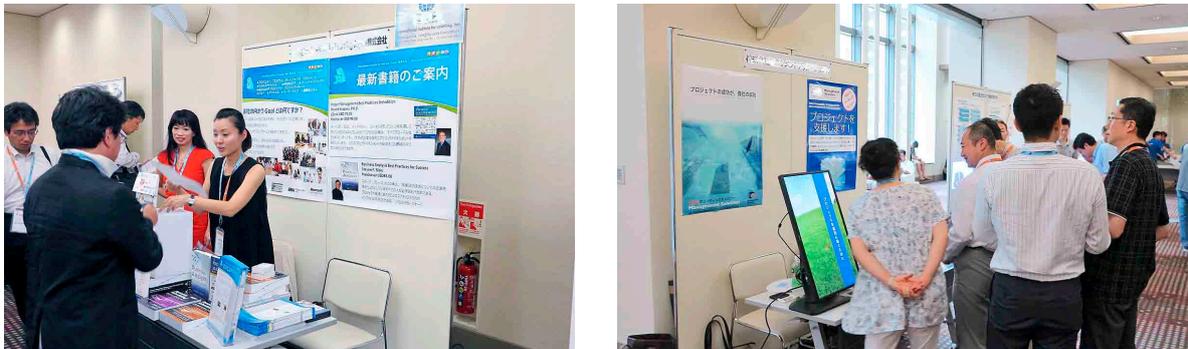
■PMI日本フォーラム2014

●大阪リモート会場



基調・招待講演の受講の様子

●展示ブース



●初日の夜の交流会



PMI理事 Ms.DeannaLandersによるあいさつ



PMI理事 Ms.DeannaLandersによるあいさつ



PMI日本支部理事による乾杯の発声



歓談の様子

■PMI日本フォーラム2014

●ボランティアの方々



サポートしていただいたボランティア・スタッフ（中央はPMI理事 Ms.DeannaLandersとPMI日本支部奥澤会長）

当コーナーは「私のブレークスルー体験」と題して、先輩PMに現場で苦勞のすえ習得した貴重な体験をご紹介します、若手PMの参考にしていただくシリーズです。

私のブレークスルー体験

■ 当たって砕けろ

UTM・マレーシア日本国際工科院 大島 直樹

■ プロローグ

2013年3月、私はマレーシア工科大学（UTM）の部局として設立されたマレーシア日本国際工科院（MJIT）に赴任し、海外の大学で教員を務めることになりました。PMIニューズレター：“私のブレークスルー体験”の執筆を依頼されたのは、UTMの教員として1年半が過ぎようとしていた時でした。

■ プロジェクトマネジメントとの出会い

思い返せば、海外で勤務するに至るまでいくつかの大きな転機がありました。最初の転機は、大学院を修了してから豊橋技術科学大学・教授Y先生の研究室の助手として勤務した事でした。Y先生は、常に自分を切磋琢磨し、自分の人生は自分で切り開くことをモットーにされていて、実践されていました。日本を代表する電気会社で半導体素子（主にレーザーダイオード）の開発に従事、その後、大学教員に転職されました。大学に移られてからは半導体素子の研究に加えて、全く新しい分野の研究にも着手し、実績を重ねられていました。大学院を修了したばかりの自分には、Y先生の姿勢に研究者としてのみならず人としての生きざまに強い衝撃を覚えました。この衝撃が、その後の私の人生を変えることになるのは、そのときには思いもしませんでした。

1999年4月、私はY研究室を離れ、山口大学工学部に移りました。2005年4月、山口大学に大学院技術経営研究科（専門職大学院）が設置されるとともに、工学部から同研究科に異動し、私は再び大きな転機を迎えることになりました。そこでプロジェクトマネジメント（PM）科目を担当することになり、大学院創設の準備とともに、PMを一から勉強するこ

とになりました。その過程でさまざまな教員や実務家の方と出会い、色々な刺激を頂きました。その中の一人として、教育工学という世界に導いてくれたT先生との出会いは今でも忘れられません。社会人を対象にした大学院では、従来の教育手法（ペタゴジー）とは異なって実践的な教育を取り入れなくてはなりません。しかしながら、ペタゴジー体験しかない自分にとっては、未知の領域で目隠しをして手探りで進むようなものです。そのため、“教育”を“工学”することや、教育工学における重要な一つの要素であるアンドラゴジー（成人教育）という概念は、とても魅力的な世界でした。私は、自分の研究の専門をそれまでの半導体工学・材料から教育工学に乗り換えることを決意しました。Y先生と出会っていなければ、この決断を躊躇していたかも知れません。

技術経営専門職大学院におけるPM科目のための教材開発とティーチングノートの準備も進めなくてはなりません。前述のように、私には社会における実戦経験が無いため、さまざまなセミナー、講習会や勉強会に参加し、PMについてゼロから学びました。そのときの何もかもが、自分にとって新しい経験でした。PMBOK®と出会ったのも、ちょうどその頃でした。PMを学ぶと、自分が行ってきた半導体材料に関する研究は、ある意味ではプロジェクトであったことを知り、研究を推進することがすなわちプロジェクトマネジメントであること実感しました。また、参加したさまざまなセミナーや勉強会で行われていた学習方法は、それまで体験したことのない実践的な方法ばかりであり、成人学習の実例として大変よい経験を積むことができました。そこで学んだことの一つは、“判らないことは調べる”、そして“調べても判らない

■私のブレークスルー体験

ことは聞く”ということです。これを繰り返すことで新しい概念や考え方を自分の言葉で説明できるようになり、それを積み重ねることで自身における知識の連結として実感できたことは大きな喜びになりました。

PMBOK®を学び始めて間もないころ、ある銀行系シンクタンクの方からPMではリアルオプション理論をどのように取り入れているのか、と尋ねられました。PMBOK®初学者の私には、PMにおけるリアルオプション理論の位置づけを説明できる訳がありません。その後、リアルオプション理論をひもといた上でPMツールボックス（ミロセビッチ著）第1部第2章「プロジェクトの選定」と照らし合わせると、リアルオプション理論を応用すると不確実性を考慮したプロジェクトの価値評価をはかり得ること、さらにステージゲート法と合わせることで経営や研究開発の意思決定を支援するためのツールとして位置づけられることが判りました。まさに、これまで断片的であった知識が一つになったことを実感できた瞬間でした。

このようにしてPMと出会ってから自身の研究や業務に対する取り組み方が変わり、PMはアカデミアにとっても不可欠な知識体系であること、またどんな専門であるかに関わらずPMを学ぶことが競争力の源泉になる筈であると確信しました。

■教育のグローバル化

2013年3月に山口大学からUTMに異動し、MJITのMOT Departmentの一員として加わりました。これは私にとって、数えてみれば3度目の転機になりました。



Malaysia Kuala Lumpur

MJITは、マレーシアにおいて日本型工学教育を行う高等教育機関として2011年9月12日に開校しました。そして、2012年6月1日にマレーシア政府からナジブ首相、日本政府から特使として鳩山前首相を来賓として招き、記念式典が行われました。MJITは、日本との連携を図りながら東南アジアにおける日本型工学教育の国際拠点となることを目指し、東南アジア地域を中心としてグローバルな課題に取り組む人材の育成を目指します。日本はMJITに対する教育支援として、協力大学25校の他、外務省、文部科学省、経済産業省、日本商工会議所および国際協力機構(JICA)から成るコンソーシアム(JUC)を結成し、日本人教員派遣や教育カリキュラムの策定等に協力しています。

日本経済の国際化にともなってプロジェクトは複雑さを増し、業界横断的になり、そして国境をまたいでグローバル化しました。それとともに、グローバル・プロジェクトに対応できるエンジニアやマネジメント人材の育成に対する要請が高まっています。これに対応すべく、大学の教育環境も大きく様変わりしようとしています。マレーシア政府が東方政策として掲げる重要な教育施策の集大成であるMJITが、日本の大学教育のグローバル化にも大きく貢献することをMJITの教員として願ってやみません。

毎号、ニューズレターの“私のブレークスルー体験”は、私にとって社会実践を垣間見るための良い教科書として拝読させていただいています。今回は、私の経験が少しでも皆さんの参考になれば幸いです。



Malaysia UTM MJIT

■私のブレークスルー体験



《著者略歴》

大島 直樹 博士（工学）

マレーシア日本国際工科院 准教授（在籍出向）

山口大学大学院技術経営研究科 准教授

2013年 3月 マレーシア日本国際工科院、～現在に至る

2005年 4月 山口大学大学院技術経営研究科、プロジェクトマネジメント科目担当

2005年 3月 山口大学 学長表彰（功績賞・ベストティーチャー部門）受賞

2004年 5月 山口大学工学部より教育賞受賞

2003年 3月 工学部におけるMOT（技術経営）教育活動に従事

2002年 11月 オレゴン州FEライセンスを取得

1999年 3月 山口大学工学部 講師

1993年 4月 豊橋技術科学大学助手

1993年 3月 名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程結晶材料工学専攻修了

Activities / 支部活動

■ 部会紹介 ソーシャルPM研究会 (その2)

WG1: ソーシャル・プロジェクト事例調査

WG2: ソーシャルPM手法開発

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 代表 高橋 正憲
同 手法開発WG サブリーダー 中谷 英雄

■ はじめに

前回のニューズレター夏号では「ソーシャル・プロジェクトマネジメントとは」と題して、災害復興支援からソーシャルPM研究会の発足に至った経緯と、現段階までの研究で得られた「ソーシャルPMのアプローチ」および「ソーシャルPMフレームワーク」をご紹介するとともに、「ソーシャルPM研究会」の概要として研究会の体制と現行プロジェクトの一覧を示しました。

今回は4つのワーキンググループのうち、WG1（事例調査）、WG2（手法開発）の活動内容についてご紹介します。

図1にソーシャルPM研究会の4つのワーキンググループの役割を全体像で示します。事例調査を受けて手法を開発し、普及活動、実践へとつなぎ、現場からのフィードバックを得

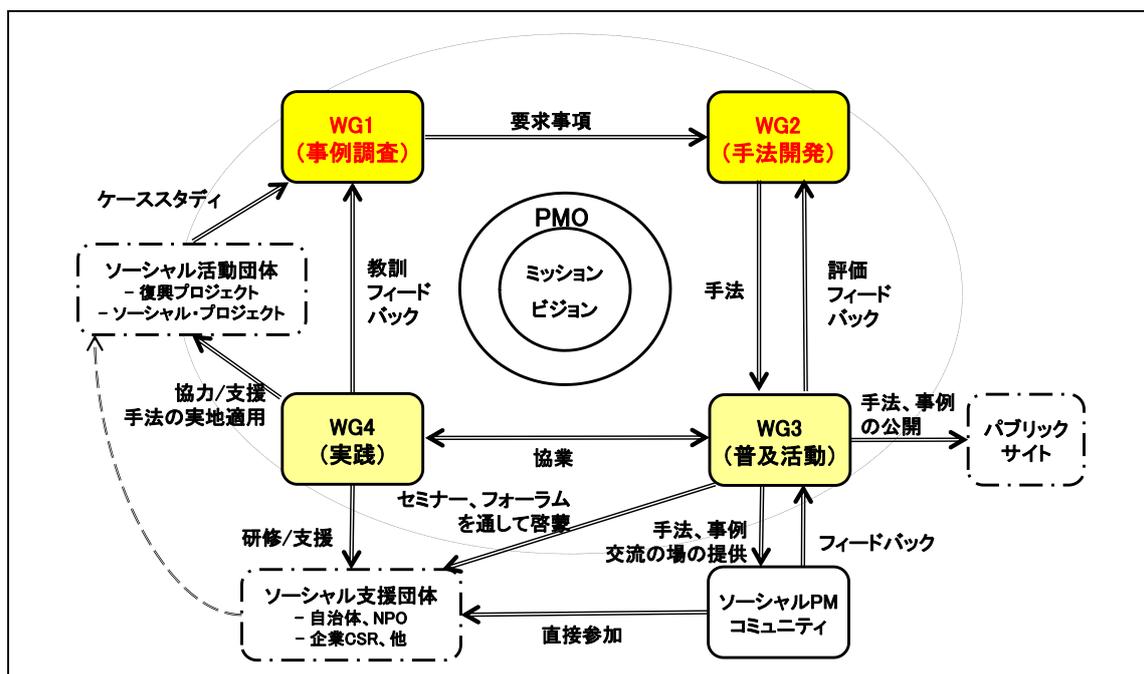
てさらに改善をしていくサイクルになっています。

ここで注目していただきたいことは、このサイクルがまさにソーシャル・デザインの方法論(前回の図2ソーシャル・ポートフォリオ計画の5つのフェーズとして構想したもの)に沿っているということです。

つまり、ソーシャルPM研究会の活動そのものが、とりもなおさず「ソーシャル・プロジェクト」であり、研究会の運営は、私たち自身がソーシャル・プロジェクトを実行しながら、そのマネジメント手法を考えていこうとしていることに他なりません。

このうち今回はWG1の事例調査によって得られたソーシャルPMへの要求を、WG2が受けて適切なマネジメント手法にまとめ上げる過程をご紹介します。

図1 ソーシャルPM研究会の全体像



■部会紹介 ソーシャルPM研究会（その2）

■WG1： ソーシャル・プロジェクト事例調査

WG1では、ソーシャル・プロジェクトの事例を調査し、「どのようなPM手法を」、「どの領域、部分、工程に」、「どの段階で」、「誰に対して」、「どのように提供」すれば、役立つかを分析します。分析の結果を、WG2（手法開発WG）へ連携し、手法に反映することで、“社会的活動に本当に役立つPM手法”の開発を実現することを目的としています。WG1の活動の概要を図2に示します。

上で述べたようにWG1の事例調査はソーシャル・プロジェクトとして、ソーシャル・ポートフォリオ計画の第2フェーズ（調査・分析）のプロセスに沿って行われます。すでに昨年、ソーシャル・プロジェクトについての勉強会において文献調査（ウェブサイトを読む）を行ってNPOや民間企業のソーシャル活動の実態を把握し、ソーシャル・プロジェクトについてのステークホルダーの分析なども実施しました。

本年度の活動は図3に示したように4つの柱で進めています。

今後、ソーシャルPMへの要求事項を抽出する中心的な手法は「フィールドワーク」です。プロジェクトの教訓分析および事例調査については、「フィールドワーク」の手法を活用して進めます。並行して広範アンケートについては、ウェブサイトまたは郵送によるアンケート調査および面談によるヒアリング調査を継続的に行います。

ここではWG1の活動で最も特徴的なフィールドワークとそ中で使われるエスノグラフィーの手法について概要を解説します。

(1) フィールドワークとは

ソーシャルな問題のある場所に入って人々、場所、モノを直接観察することです。現実の環境の中で人々の行動を詳細に調査します。主な作業は、以下の5点です。

- ①調査者を決定する
- ②文献調査、アンケート調査を行う
- ③参与観察を行う
- ④聞き取り調査を行う
- ⑤調査報告を行う

図2 WG1（事例調査WG）の活動

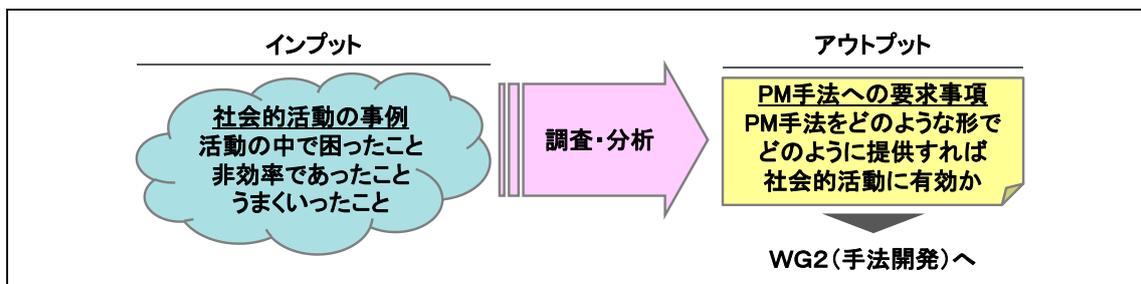
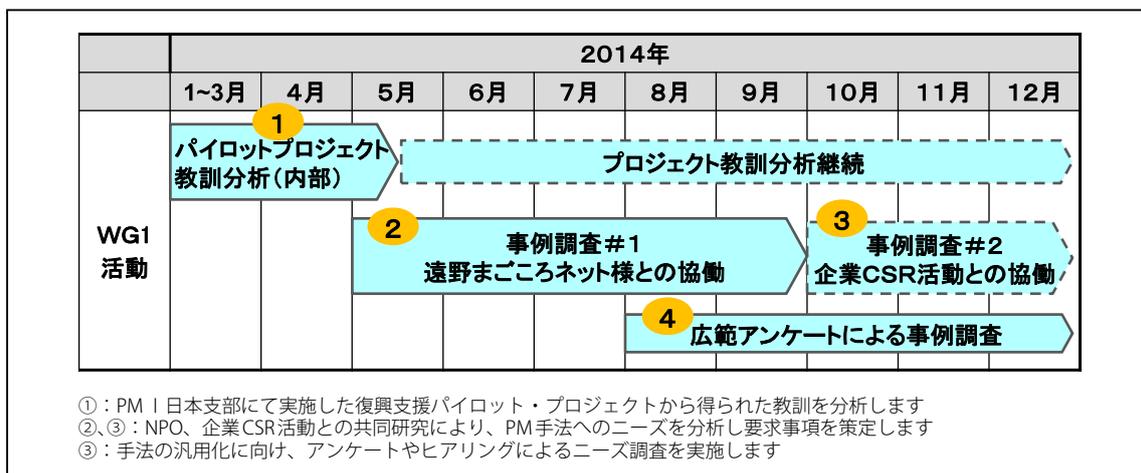


図3 WG1（事例調査WG）の2014年活動計画



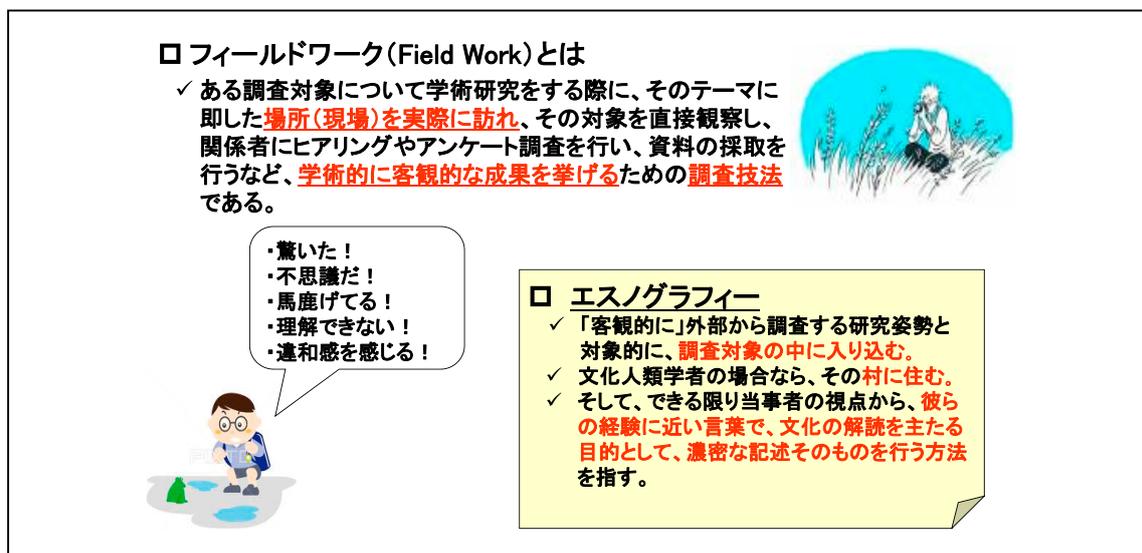
■部会紹介 ソーシャルPM研究会（その2）

(2) エスノグラフィーとは

エスノグラフィーは英語で表記するとEthnography。Ethno（民族）＋Graphy（記述）で日本語では「民族誌」と呼ばれます。エスノグラフィーはもともと、文化人類学や社会人類学の中で、あるコミュニティーにフィールドワークとして入り込み、その中での行動様式を記述し、価値観を見いだしていく手法として使われていました。

近年、エスノグラフィーは、デザイン思考を活用して、人間中心のイノベーションを生み出す手法として注目されています。ソーシャルなテーマにおいても、課題を解決する上で、一連の活動（フィールドワーク⇒機会発見⇒アイデア創出⇒意思決定）をデザイン思考で共有するためのプロセスと位置づけています。

図4 フィールドワークとエスノグラフィーについて



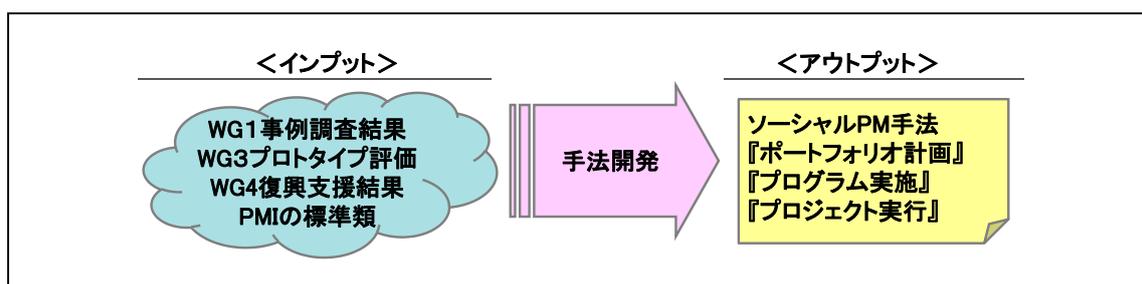
■ WG2： ソーシャルPM手法開発

WG2は、WG1の事例調査結果、WG3のプロトタイプ評価、WG4の復興支援結果を受けて、手法開発に向けた要求分析を行います。

そして、緊急性・重要性を考慮し、“社会活動の貢献に対して、本当に役立つPM手法”の実践的な構築を目指します。WG2の活動の概要を図5に示します。

WG2の手法開発の進め方は、ソーシャル・ポートフォリオ計画の第3フェーズ（統合）のプロセスです。ソーシャルPM手法の構成は、計画レベルのポートフォリオ計画、実行レベルのソーシャル・プログラムおよびソーシャル・プロジェクトと3階層になります。本年度の計画ではポートフォリオ計画とプロジェクト実行手法の検討を進めています。プログラム実践手法については来年度の取り組みとします。

図5 WG2（手法開発WG）の活動



■部会紹介 ソーシャルPM研究会（その2）

のか、その関係性について、ストーリー・テリングする中で、納得を得ることができます。

(3) プロトタイピングとは

社会課題のアイデア創出においては、以下のメリットを享受するため「作って学習する」ことを狙いとしたプロトタイプを作成します。

- ①少ないコスト、エネルギーでさまざまな「正しい」答えを
実験できる
- ②機会や限界を早い段階で表面化させ、学びを加速させる
- ③抽象的な考えを、見て触れるようにすることで、誰もが経験し、評価できるようになる
- ④場の空気をポジティブにし、参加者が協調して推進しやすい状況を作る

■おわりに

今回はソーシャルPM研究に関する調査と手法開発の進め方について解説し、その中で特徴的な手法を紹介しました。

今回は、WG3（ソーシャルPM普及活動）、WG4（ソーシャル・プロジェクト実践）について紹介します。ここで開発された手法をいよいよ外部に公開し、実地に適用して有効性を検証する段階になります。

PMI Japan Festa 2014 開催のお知らせ

『To the Next.』 ～未来を創る新時代のPMを考える～

2014年11月8日(土)、9日(日)の2日間にわたり、PMI Japan Festa 2014を開催します。

今急成長しているビジネス・エリアをリードするフロントランナーの講演を通じ、今一度PMの原点に立ち戻ります。未来を創るという観点から将来像を見据え、そしてその過程を考えることにより、次の舞台でPMがとるべき行動や心構えについて考えていきます。

最大9PDUを取得できる機会です。早割の期限は10月16日 15:00です。

【開催概要】

主催	PMI日本支部				
テーマ	『To the Next.』 ～未来を創る新時代のPMを考える～				
日時	2014年11月8日(土)・9日(日)				
場所	慶應義塾大学日吉キャンパス協生館藤原洋記念ホール ■住所：横浜市港北区日吉4-1-1 東急東横線・東急目黒線・横浜市営地下鉄グリーンライン日吉駅徒歩1分 ■現地問合せ：045-564-2500 (代表)				
当日の進行	2014年11月8日(土)、9日(日)				
	【11月8日(土)】 <ul style="list-style-type: none"> • 11時30分～12時15分 受付 • 12時15分～12時30分 開催要領案内・開会挨拶 • 12時30分～17時40分 セッション • 18時00分～20時00分 交流会(協生館1階「HUB」にて) 				
参加費用 および 受講証明	【11月9日(日)】				
	<ul style="list-style-type: none"> • 9時00分～9時30分 受付 • 9時30分～16時50分 セッション • 16時50分～17時05分 閉会挨拶 				
		PMI日本支部会員	法人スポンサー社員	一般	受講証明
	(A) 1日目のみ	10,000円 11,500円	13,000円 14,500円	18,000円 19,000円	4PDU ITC実践力ポイント 4時間
	(B) 2日目のみ	12,500円 14,500円	16,250円 18,250円	22,000円 23,000円	5PDU ITC実践力ポイント 5時間
(C) 両日参加	21,000円 24,000円	27,000円 30,000円	36,000円 39,000円	9PDU ITC実践力ポイント 9時間	
交流会	2,000円	2,000円	2,000円	—	
上段の金額は、10月6日(月)15:00までに入金確認できた方への早割料金です。					
定員	各日とも350人 (申込み順)				
申込み締切	2014年11月6日(木)15時入金確認分まで。定員になり次第、締切らせていただきます。				
申込方法	PMI日本支部トップページのバナー「PMI Japan Festa 2014」よりお申し込みください。				

Activities / 支部活動

■ 『To the Next.』 ～未来を創る新時代のPMを考える～

【講演プログラム】

11月8日(土)

	テーマ	講師
12:30 ～ 13:30	国産旅客機 MRJ を世界の空へ!	岩佐 一志 様 三菱航空機株式会社 コーポレート本部 経営企画部長
13:50 ～ 14:50	医療機関における超上流からの プロジェクトマネジメント	成清 哲也 様 東京医科大学 医療情報統括室課長
15:20 ～ 16:20	プロジェクション・マッピングは 世界をどう変えたか!? ～クリエイターが見据えた未来展望～	土井 昌徳 様 株式会社 SUPEREYE 代表取締役社長/クリエイティブディレクター
16:40 ～ 17:40	三陸鉄道 復旧・復興の取組み	望月 正彦 様 三陸鉄道株式会社 代表取締役社長

11月19日(日)

	テーマ	講師
9:30 ～ 10:30	参加型だと人は動く ～成長し続けるコミュニティづくりを目指して～	太田 彩子 様 一般社団法人 営業部女子課の会 代表理事 株式会社 CDG 取締役
10:50 ～ 11:50	東京マラソン仕掛け人が狙う次なる戦略とは ～大会運営を超えた壮大な計画をリーディングする コンテンツマネジメント～	早野 忠昭 様 一般財団法人 東京マラソン財団事業局長 東京マラソン レースディレクター
13:00 ～ 14:00	建設会社ならではの広報活動とその組織づくり	岩坂 照之 様 前田建設工業株式会社 総合企画部広報グループ長
14:20 ～ 15:20	女性誌編集長から新規事業創出へ ～女性活躍推進はわがミッション～	麓 幸子 様 日経BP ヒット総合研究所長・執行役員
15:50 ～ 16:50	コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築 ～公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり～	森 雅志 様 富山県 富山市長

詳細は、ホームページをご覧ください。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■株式会社ワコム

株式会社ワコムは、1983年の創業以来、「for a creative world」のメッセージの下、クリエイティブ用途へ向けたブランド商品群を提供するとともに、そこで培った技術をモバイル製品用に最適化し、基幹部品としてOEM供給することで成長してきた会社です。日本を含めた全世界150カ国以上で製品を販売し、連結全従業員数は約1,000人です。

2014年4月より、PMI日本支部の法人スポンサーとなりました。



1. 企業概要

ワコムは、あらゆる分野で人々のクリエイティブなニーズに応えるため、ユーザインターフェース製品とソリューションを開発・製造・販売しています。その事業領域は、ブランド製品事業、コンポーネント事業、その他の事業から構成されています。

2. 事業内容

ブランド製品事業では、ワコムブランドを冠したハードウェア製品やソフトウェア、ソリューションなどを提供します。ハイエンドのデザインやグラフィックス用途から、日常のクリエイティブな活動を楽しむためのツール、さらには業務フローのペーパーレス化やセキュリティ強化に役立つ入力機器まで、お客さまのニーズや事業特性により、「クリエイティブ」、「コンシューマ」、「特定業務用途」の 카테고리から構成されています。

「クリエイティブビジネス」では、高性能液晶パネルを採用したクリエイティブディスプレイの「Cintiq（シンティック）」シリーズが好評をいただいています。さらに2013年からは、OSを搭載して「Cintiq」の高度な機能をいつ、どこでも利用できるクリエイティブモバイルの「Cintiq Companion（シンティックコンパニオン）」シリーズを提供しています。また、ペンタブレットでは、高度な筆圧感知と傾き検出に対応したペンおよび指によるマルチタッチ・ジェスチャー操作が特徴の「Intuos Pro（インテュオスプロ）」、エントリー向けの「Intuos（インテュオス）」の両シリーズを提供しています。さらに、iPad上で2048段階までの筆圧検知が可能で表現力豊かな手書き入力表現ができるスタイラスペン「Intuos Creative Stylus（インテュオスクリエイティ

ブスタイラス）」も好評です。

近年、多くの人々が、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器を使い、タッチ操作によってコンテンツを利用しています。今後は、スタイラスペンを用いて、モバイル機器でコンテンツを作り、加工する使い方が増えていくと見られています。ペンを「デジタル文房具」として活用する世界は、ごく間近に迫っていると言っていいでしょう。「コンシューマビジネス」では、この領域に注力していきます。

コンピュータやネットワークインフラなどの発展によって、さまざまな領域で文書の電子化（ペーパーレス化）が加速しています。企業内での文書管理や販売店での商品説明、金融機関での契約手続き、医療現場での電子カルテ利用、ホテルでのチェックイン手続きなど、その領域は多岐にわたっています。また、電子化した文書の管理には高度のセキュリティ機能も不可欠です。当社では、こうした用途を「特定業務分野ビジネス」と位置づけ、お客さまとコンピュータシステムをつなぐ商品群を提供しています。

コンポーネント事業では、ペンタブレットで培ってきたペン入力とマルチタッチ技術を、AndroidやWindowsなどのOSに対応させ、各種モバイル機器に提供しています。スマートフォンやタブレット、パソコン、電子書籍端末用に、ペン入力やマルチタッチ機能をOEM（相手先ブランド製造）先にコンポーネントとして、法人顧客に供給しています。

本事業で提供する部品は「Wacom® feel IT technologies (feel™)」と命名し、ペンによる手書き入力や、マルチタッチによる直感的な操作などを、より自然な使い心地で提供するユーザインターフェース・ソリューションとして、高い評価をいただいています。本年4月には、当社ペンfeelコンポーネントの累計生産本数が1億本を超え、「デジタル文房具」

■株式会社ワコム

時代の有力ツールとして、スタイラスペンの存在感が急速に高まっていることがうかがえます。

これらに加えてワコムでは、手書きインクデータ（=デジタルインク）をコンピュータのOSやアプリケーションなどの互換性を気にせず自在に共有・活用できる仕組み「WILL」を発表しました。

「WILL」を使うことにより、例えば、相手が離れた場所においてもクラウド経由でインクデータをリアルタイムにやりとりすることが可能になります。ワコムでは、ブランド製品事業、コンポーネント事業の両事業と連携して、WILLを「デジタル文房具」時代の扉を開くための新たな業界標準として提唱しています。数多くのハードウェアやソフトウェアのメーカー、サービス事業者、システムプロバイダーなどに、幅広く採用を呼びかけ、幅広い普及に向けて活動しています。

3. プロジェクトマネジメント活動

当社には、ブランド製品、コンポーネント、および電気設計CADソフトウェアそれぞれの事業・分野でグローバルレベルのプロジェクトマネジメント組織があります。

また、事業を支えるコーポレートファンクションでは、複数国を対象とした組織チェンジマネジメントや基幹業務システムの統合化プロジェクト、展示会への出展に際してのイベント管理業務で多様なプロジェクトマネジメントを推進しています。具体的には、中期経営計画後のビジネス成長を視野に入れ、10カ国を越える海外現地法人を対象に社内業務・IT改革プロジェクトを行っています。

このように、グローバルレベルで多様なプロジェクトマネジメントが展開されていることが弊社の特徴で、国内外の

PMP®ホルダーが人材育成を担当しています。日本ではPMI日本支部法人スポンサーに入会し、グローバルリーダーシップ、多様なプロジェクトマネジメント業務におけるPMBOK®の活用、およびチェンジマネジメント等の情報収集と学習を開始しています。グローバルレベルでは、一般社員を対象としたプロジェクト管理の基礎知識トレーニングを進めており、プロジェクト・マネジャーでなくても活用できる知識やツールを共有・展開し、業務効率の向上を支援しています。

4. PMI日本支部への期待

ベストプラクティスの共有や事例検討会などさまざまな機会を提供いただき、有り難うございます。PMI日本支部法人スポンサー・プログラム参加者には、男性管理職の方が多いようにお見受けします。今後はPM職のダイバーシティ拡大にむけて、女性や日本で働く外国籍の方、若手の方々にもご参加いただけるような機会作りにグローバル・カンパニーとして貢献できると幸いです。

引き続きよろしくご依頼致します。

■株式会社ワコム

• 本社

〒349-1148 埼玉県加須市豊野台二丁目2-510-1

• 東京支社

〒160-6131 東京都新宿区西新宿8-17-1

住友不動産新宿グランドタワー31階

<http://www.wacom.com/>

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

■ PMI日本支部関連セミナー

● アジャイルプロジェクトマネジメントの基礎

- 日時：10月8日(水) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU

● 変革リーダーのためのアジャイル変革入門

- 日時：11月12日(水) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU

● 『転ばぬ先の杖、現場で使うためのリスクマネジメント』

- ～実践形式で学ぶリスクマネジメントプロセス～
- 日時：11月29日(土) 10:00～17:30
 - 場所：PMI日本支部セミナールーム
 - 6PDU

● PMO研究会 セミナー&ワークショップ

- 日時：2014年10月18日(土) 13:00～17:00
- 場所：PMI日本支部 セミナールーム
- 4PDU

● アジャイルプロジェクトマネジメントの基礎 (体験編) ～SCRUMプロジェクト入門～

- 日時：12月2日(火) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU

● 12月度 月例セミナー

- ステークホルダー・マネジメントに活かす『影響力の法則』
- ～ステークホルダーを動かす戦術～
 - 日時：12月9日(火) 19:00～21:00
 - 場所：アクセス渋谷フォーラム
 - 2PDU

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI Japan Festa 2014

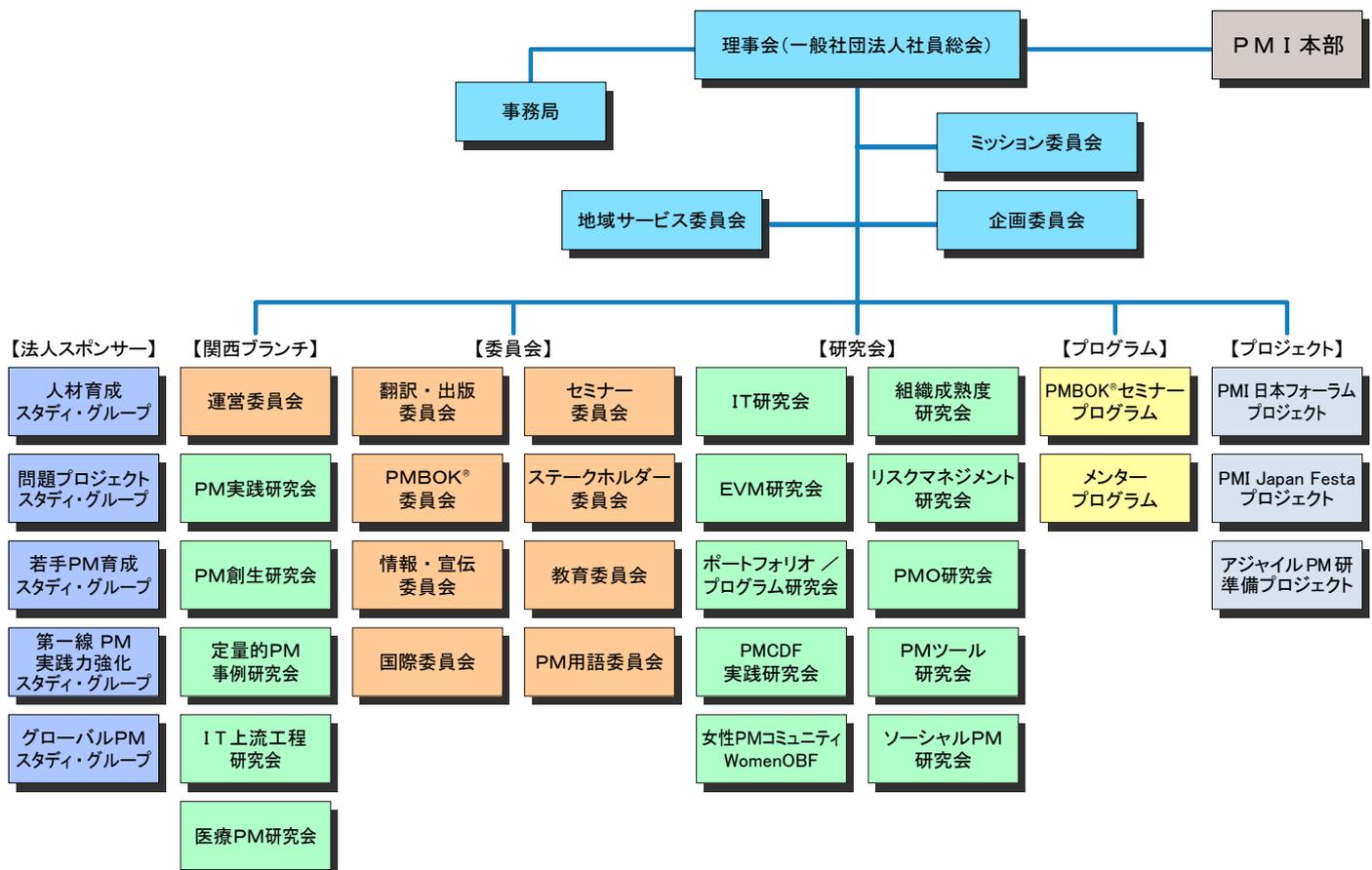
- 日時：2014年11月8日(土)・9日(日)
- 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館
藤原洋記念ホール
- 最大9PDU

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2014年9月現在)



■ 理事一覧 (2014年9月現在)

会長	: 奥 澤 薫 (日本電気株式会社)
副会長	: 片 江 有 利 (株式会社プロシード)
理事 (ミッション担当)	: 端 山 毅 (株式会社NTT データ)
理事 (マーケティング・会員担当)	: 徳 永 幹 彦 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
理事 (マーケティング・会員担当)	: 武 上 弥 尋 (アイエス情報システム株式会社)
理事 (研究担当)	: 当 麻 哲 哉 (慶應義塾大学大学院)
理事 (教育担当)	: 本 間 利 久 (北海道大学)
理事 (教育担当)	: 中 嶋 秀 隆 (プラネット株式会社)
理事 (渉外担当)	: 杉 村 宗 泰 (日本マイクロソフト株式会社)
理事 (社会貢献担当)	: 高 橋 正 憲 (PMプロ有限会社)

理事 (社会貢献担当)	: 麻生 重樹 (日本電気株式会社)
理事 (広報・宣伝担当)	: 竹内 正興 (一般財団法人国際開発センター)
理事 (財政担当)	: 三嶋 良武 (株式会社三菱総合研究所)
理事 (地域担当)	: 神庭 弘年 (神庭PM研究所)
理事 (地域担当)	: 木下 雅裕 (ニッセイ情報テクノロジー株式会社)
理事 (コンピテンシー担当)	: 福本 伸昭 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (コンピテンシー担当)	: 除村 健俊 (株式会社リコー)
監事	: 大久保 賢吉朗
監事	: 渡辺 善子

■最新の会員・資格者情報 (2014年7月末現在)

会員数		資格保有者数						
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	CAPM®
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
447,587人	3,132人	627,844人	31,956人	4人	4人	3人	9人	50人

■法人スポンサー 一覧 (99社、順不同、2014年9月現在)

- ・TIS株式会社
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・株式会社NSD
- ・株式会社プロシード
- ・株式会社インテック
- ・キヤノンITソリューションズ株式会社
- ・NTTコムウェア株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・株式会社ジェーエムエーシステムズ
- ・アイアンドエルソフトウェア株式会社
- ・株式会社NTTデータ
- ・日本マイクロソフト株式会社
- ・プラネット株式会社
- ・株式会社建設技術研究所
- ・日本ユニカシステムズ株式会社
- ・株式会社クレスコ
- ・ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- ・日本ヒューレット・パッカート株式会社
- ・株式会社アイ・ティー・ワン
- ・コンピューターサイエンス株式会社
- ・株式会社タリアセンコンサルティング
- ・TDC ソフトエンジニアリング株式会社
- ・株式会社大塚商会
- ・日本プロセス株式会社
- ・株式会社NTTデータ関西
- ・日本ユニシス株式会社
- ・Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- ・JBCC株式会社
- ・株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- ・日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- ・株式会社アイテック
- ・株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- ・株式会社日立インフォメーションアカデミー
- ・情報技術開発株式会社
- ・富士ゼロックス株式会社
- ・アイシンク株式会社
- ・千代田システムテクノロジーズ株式会社
- ・三菱総研DCS株式会社
- ・ソニー株式会社
- ・東芝テック株式会社

- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社三技協
- 株式会社JSOL
- NEC ネットエスアイ株式会社
- リコーITソリューションズ株式会社
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社RINET
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- ソニーグローバルソリューションズ株式会社
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- トップンエムアンドアイ株式会社
- PMアソシエイツ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning - Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- ニューソン株式会社
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクシス
- アーケイディア・コンサルティング株式会社
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社パソナ パソナキャリアカンパニー
- 株式会社エンラプト
- グローバルナレッジネットワーク株式会社
- Innova Solutions, Inc.
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGST ジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウェア株式会社

■アカデミック・スポンサー 一覧 (27教育機関、順不同、2014年9月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部

- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 今号のトップでは、本年7月に延べ1,200名を超える方々に参加いただき盛況のうちに閉幕した「PMI 日本フォーラム 2014」のまとめをご報告しました。
- 「私のブレークスルー体験」は、山口大学大学院技術経営研究科 大島直樹准教授からの寄稿です。名古屋大学大学院修了後、豊橋技術科学大学から山口大学を経てマレーシア日本国際工科院への在籍出向に至るまでのそれぞれの転機は？
- 東日本大震災を契機に立ちあがった「災害復興支援プログラム」。そこから発展した「ソーシャル・プロジェクトマネジメント（ソーシャルPM）研究会」の第二回目の紹介として、研究会代表の高橋正憲（PMI日本支部理事）氏と手法開発WG サブリーダー 中谷英雄氏から、WG1（事例調査）、WG2（手法開発）の活動内容について寄稿いただきました。
- 「法人スポンサー紹介」は、今春ご加入いただいた株式会社ワコムさま。ペンタタブレット、液晶ペンタタブレットをはじめとしたユーザインターフェース製品とソリューションの開発・製造・販売を手掛けるグローバル・カンパニーです。
- 来たる11月8日(土)・9日(日)に慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館藤原洋記念ホールで開催される「PMI Japan Festa 2014」の概要をご紹介しました。初日の夜の交流会には4人の講師全員が参加して下さいます。早割期限は10月6日(月)に迫っていますので、参加ご希望の方はお早目にお申し込み下さい。

ニューズレター編集担当から読者の皆様へお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

PMI日本支部ニューズレター Vol.60 2014年9月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局
 〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階
 TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833
 E-mail：info@pmi-japan.org
 ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)